

アソカの園^{その}

■ 楽曲データ

歌詞：松本政枝 作詞

楽曲：森正隆 作曲

発表：浄土真宗本願寺派仏教婦人会総連盟 1957年

初演：—

初出：—

管理番号：M1938

■ 創作の経緯

「これまでにない、はつらつとした明るい仏教婦人会の歌を」という要望により、1957（昭和32）年の仏教婦人会総連盟全国総会にあわせて制作。歌詞は公募により、総会当日に作曲者自筆のガリ版刷りの楽譜ができたという。作曲者による歌唱指導の際、旋律を変更して指導したところ、大谷嬉子総裁（当時・第23代勝如上人裏方）より楽譜と違っているとの指摘があった、というエピソードも伝わる。

■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第4巻収録

底資料：『佛教讃歌』 本願寺出版協会 1973年

比較資料：—

校訂の詳細：特記事項なし

■ 解説

音楽ジャンルのひとつに、団体歌と呼ばれるものがあります。代表的なものとしては、校歌や企業の社歌が挙げられるでしょう。一般にこのジャンルの音楽は、それぞれの団体を象徴するものとして作曲されています。しかし同時に、こうした組織の歌には、そこに所属する人びとの絆を強めるという働きがあることも忘れてはなりません。

人間関係が希薄化し、孤立社会や無縁社会という言葉がメディアを賑わす昨今ですが、お寺の門は誰にでも開かれています。そこには、私を受け入れてくれる婦人会の仲間がいて、そして仏さまとともにある——そのことを思い出させてくれるのもまた、なじみのメロディーとなっているこの《アソカの園》ではないでしょうか。

◆ 作品について

詞は、当時公募され、松本政枝さんの作品が選ばれました。曲は、《まるいころ》や《生きる》などの仏教讃歌でおなじみの、森正隆さんによるものです。1957（昭和32）年4月に開催された仏教婦人会総連盟全国総会にて発表されてから今日まで、仏婦といえば《アソカの園》というほどに、実質的な仏教婦人会の歌として親しまれています。

◆演奏のヒント

仏教婦人会のイメージにふさわしく、のびやかなメロディーとなっていますので、冒頭にあるとおり「流れるように」歌いましょう。中間部（1番の歌詞「母なれば～」の部分）は、マイナーの和音にのせて優しく、そして次第に雰囲気盛りあげながら、終わりの部分では堂々と（しかし粗くならないように）歌いましょう。

解説執筆：福本康之（浄土真宗本願寺派総合研究所上級研究員）

※本解説は、「メロディーの宝石箱」（仏教婦人会総連盟機関誌『めぐみ』第222号収録）を加筆・修正のうえ、転載。

Copyright: Jodo Shinshu Hongwanji-ha Research Institute. All Rights Reserved.